



戦国時代、駅・加沢という地は、山寺や出羽三山詣の人々が行き来した二口越え最上街道の中でも西部防衛の要、要害の地として武将の館が築かれる土地でした。

今に受け継がれる町並みはこの頃に形づくられ、今日まで人々の暮らしが連続と営まれています。

また、四季折々に印象を変える銀白の白岩や、人の手によるものながら、農地を潤す水を湛え地域の生活を支えてきた加沢ため池のたたずまいなど、心和む風景が静かに迎えてくれる土地でもあります。



中世に思いを馳せながら、眼前の風景に心いやされる小さな歩き旅に出かけてみましょう。

秋保

あるく 駅・加沢

— 中世の遺構と心なごむ風景を訪ねて —



豊後館跡にたたずみ、大きな土塁や柵型形状の虎口（こぐち）を配する実戦の備えを目にすると、土地の人々がここを「矢来（やらい）」と呼ぶことに納得し、この地で練り広げられていたであろう激しい戦に思いが至ります。

豊後館を堅固な砦にしている小滝沢は、深い溪谷に文字どおりの小振りな滝を二つも持つ、まさに要害の沢です。

その昔、館の主が最上勢を迎え討つため野尻に出陣したおり、守りが手薄になった館を名取川を挟んだ向かいの白岩から攻め込まれ、留守を守っていた奥方がわが子を抱いて小滝沢へ身を投じたという逸話が残っています。この逸話が別名「子抱沢」と呼ばれる由縁とのことです。

また、ここは天正十九年（1591年）に起きた大事件の現場でもあります。館の主である馬場摂津守定重・頼重親子（頼重は後に、伊達の黒船サンファンパウチスタ号の造船奉行となります）が、伊達政宗の命により、敵対していた最上氏に内通した、桃生郡深谷大曲（現在の東松島市大曲周辺）領主長江月鑑斎を誅殺したのです。勇将として知られた長江月鑑斎を討つことで、定重は大いに武名を上げたと言われています。ひょっとして豊後館に漂う雰囲気は月鑑斎の無念の思いでしょうか。

秋保 あるく 駅・加沢

企画・発行：秋保地域資源活用委員会・仙台市
連絡先：秋保総合支所総務課 (022-399-2111)
秋保市民センター (022-399-2316)

体感 中世武士の息吹 上館・豊後館
現代に生き続ける先人の想い 加沢水路隧道
銀白の奇勝 白岩 ……

掲載されている情報は、平成31年3月現在のものです。

訪れてみたい秋保
二口街道ツアー 62

No.15



1 上館跡(馬場愛宕神社)

16世紀半ば、当時の主要な二つの街道を見下ろす標高240mの山の上に、秋保家の分家馬場秋保家の秋保盛義(加沢左衛門)が築いた館です。複数の土壇と空堀を施した無類の堅塁で、今では木が生い茂り視界を遮っていますが、その頃は所領を一望のもとに収めることができたでしょう。ここから馬場秋保氏の歴史が始まりました。

館跡には現在火伏の神「馬場愛宕神社」が祀られています。



2 大雲寺(秋保家御廟)

本城のあった橋山を正面に見るように、仙台藩で家老職を務めた第23代秋保氏盛など藩政時代後期の領主と室の墓が並んでいます。この地を治めた秋保氏の歴史を感じさせるスポットの一つです。



3 加沢ため池(加沢堤)

長袋地区に広がる田んぼに清らかな水を供給し、おいしい「秋保米」を育ててきた水がめが加沢ため池(加沢堤)です。水源の黒森山と戸神山を水面に写し込んだ様は、単にため池にしておくだけでは惜しいような、そんな美しさも兼ね備えています。



あるく 駅・加沢

街道の集落 「駅」



6 銀白の奇勝 白岩



豊後館跡のすぐ南側、名取川右岸の山腹に高さ200mにも達する銀白の大岩壁、白岩がそびえています。凝灰岩が長い時間をかけて浸食され、面白い景観が出来上がりました。春は桜、夏の青葉、秋には紅葉、冬の雪化粧と、それぞれの風情で癒してくれます。朝日を浴びて岩肌が輝く瞬間は出色です。かつてみやぎ新観光名所100選(河北新報社)の一つに選ばれています。

5 豊後館跡

16世紀末戦国時代も終焉に近づくと、二口街道をめぐる防衛強化のため、馬場秋保氏三代目となる摂津守定重が上館から移転整備したのが豊後館です。現在の駅の町並みもこの頃に形づくられたと云われます。名取川と小滝沢の断崖を利用した舌状の天然の要害で、100mに及ぶ土塁や枡形状の虎口を配した二口街道随一の堅固な要塞です。天正19年(1591年)、伊達政宗の命により、最上に内通した桃生郡深谷の領主長月鑑齋を誅殺した場所としても知られています。



豊後館跡から白岩を臨む / 今に残る虎口の石垣 / 名取川左岸の断崖の上が豊後館跡

★ 人面岩



白岩から下流へ少しばかり。名取川のせせらぎからふと断崖に目を転じると、こんな巨人が川の流れをじっと見つめています。自然が生んだ偶然の造形です。

豊後館跡断崖下の名取川

★ 小滝沢峡谷



豊後館跡東側の小滝沢は、小滝沢橋まで穏やかだった流れが、それを過ぎた途端に断崖に挟まれた。まさに峡谷と呼ぶにふさわしい険しい姿に変わります。幻の「けんべいの滝」も容易に人を近づけてくれません。

★の場所は、安全のための装備や案内が必要です。

★ 加沢水路隧道



加沢ため池(加沢堤)のすぐそばには驚きの地域遺産があります。人が立てるほどの高さで、長さが数十メートルもある手掘りの隧道です。先人がコツコツと少しずつ掘り抜いた現役の水路です。

4 小滝沢橋(めがね橋)



駅と加沢の境となる沢に架かっている苔むしたアーチ型石橋が、通称めがね橋といわれている旧小滝沢橋で、かつては県道橋として路線バスも渡っていました。地元石ヶ森産の石で昭和14年に造られました。市の有形文化財に指定されています。